

主題	地域住民と自立型高齢者施設との関わりについての研究		
副題	地域住民との交流に必要な4つの取り組み！！		
地域コミュニティ		広報活動	
研究期間	15 か月	事業所	軽費老人ホーム（A 型） 偕楽荘
発表者：久野 千鶴（ひさの ちづる）		アドバイザー：	
共同研究者：宮地 紀子 岡 靖晃			
電 話	042-376-1711	メール	oka@rakuyuukai.com
FAX	042-337-0327	URL	http://www.rakuyuukai.com/

今回発表の事業所やサービスの紹介	軽費老人ホーム偕楽荘は昭和43年に開設し、平成8年に現在の多摩市山王下に移転しました。同社会福祉法人には特別養護老人ホーム、在宅サービスセンターを有しています。 キティーちゃんて有名な多摩センター駅より15分程度の高台に建てられて、晴天のときには富士山を眺められる見晴らしの良い立地にあります。
------------------	---

《1. 研究前の状況と課題》

- ・軽費老人ホームは自立型の入居施設のため、外出などは自由であるが、基本的に生活に必要な衣食住や余暇活動、他者との交流までも施設内で完結してしまい、かえって地域とのつながりが希薄になることが見受けられた。
- ・第三者評価の結果から、施設利用者と地域の方とのつながりの無さと施設と地域との接点の少なさに気づき、また施設利用者にも、地域の方とのつながりを求める方が多くいることがわかった。
- ・施設への入居申し込み者等のアンケートから、大半の方が今まで軽費老人ホームを知らなかったと答えた。

以上の事から

軽費老人ホームの認知度と地域とのつながりが希薄であることが偕楽荘の課題であると感じた。

《2. 研究の目標と期待する成果・目的》

地域とのつながりを構築し、利用者と地域の方の生活向上に繋がるシステムの確立

1、地域の方が参加出来るクラブ活動の提供
地域の方に年間を通して行っているクラブ活動を開放し、参加して頂くことで地域の方と利用者との交流機会の確立

2、地域貢献

施設利用者の自主的な活動で、地域に貢献できることを利用者と話し合い実施する。

3、高齢者相談

施設開放日の実施の他、高齢者何でも相談日等を行ない、高齢者施設に入居を考えていない方でも気軽に参加できるシステムの確立

4、介護予防教室の活用

P T の指導による偕楽荘オリジナル介護予防教室を地域の高齢者へ開放し、地域の高齢者の転倒防止と介護予防の場として、施設機能を地域へ還元する。

《3. 具体的な取り組みの内容》

1、クラブ活動の開放（地域交流）

- ・施設広報紙、地域の情報紙に募集案内を掲載し、参加者を募った。
- ・参加者の経費は材料費のみとした。
- ・利用者と一緒に行うため、参加登録証を作成し、個人情報保護などについて簡単なオリエンテーションを実施した。
- ・万が一の参加者の事故に備え、保険への加入を行い、費用は施設で負担した。

2、地域のゴミ拾い(地域貢献)

- ・利用者と相談した結果、既存の散歩デーの時間に、散歩を行いながら、地域のゴミ拾いを実施。

3、施設開放日の開設（認知度向上）

- ・施設広報紙、地域の情報誌を活用し、施設開放日と相談日の周知を図った。高齢者なんでも相談などを実施し、高齢者施設を広く知って頂くための取り組みを行なった。

4、介護予防教室の地域開放（地域還元）

- ・今年度は計画段階だが、PTと相談し、年4回のシリーズを企画。体力測定と測定結果のフィードバックを行う予定。
- ・参加費用は無料
- ・保険も施設で加入予定

《4. 取り組みの結果と考察》

《クラブ活動開放について》

- ・クラブ活動への参加者は1年目は3名2年目には8名と増えた。結果、利用者との交流も図れ、クラブ活動日以外にも練習に参加し、交流を深めている。

《地域のゴミ拾い》

- ・地域のゴミ拾いは参加利用者の地域貢献への意識も高く、また、地域住民から声をかけていただくなど、交流も図れている。

《施設開放日・相談日について》

- ・入居希望の方からいまはまだそうではない方まで幅広く訪れていただき、施設というところ「気軽に立ち寄れない」というイメージ解消

につながり、施設の広報効果もあった。

《介護予防教室》

- ・今年度から、協力病院を通じて契約をしていたPTと直接契約へ移行し、より自由な取り組みが可能となった。また、包括支援センターへの協力も依頼し了承を得た。次年度の実施へ向けて準備を進めている。

《5. まとめ、結論》

地域のとのつながりを推進することで、利用者の生活の幅が広がり、地域住民としての意識が高まりつつある。また、施設を開放することで、地域の方に施設の必要性和将来の不安の解消などの理解に繋がった。

《今後について》

- ・介護予防教室を地域の方を含めて実施することで更なる地域との繋がりを企画
- ・ポイントカードを作成し、ポイントが貯まったら、偕楽荘で利用できるサービス券などを発行し楽しく活動を行なえるような工夫を検討
- ・法人全体で、地域とのつながりについて企画・計画を行ない、地域とのつながりを法人のストレングスとして確立したい。

《6. 倫理的配慮に関する事項》

本研究を行うに当たり、本人に口頭にて確認し、本研究発表以外では使用しないこと、それにより不利益を被ることはないことを説明し、回答をもって同意を得たこととした。

《8. 提案と発信》

高齢者施設にとって地域とのつながりは利用者の生活の質の向上につながることである同時に、地域の方の生活の向上にも寄与できることだと感じた。高齢者施設がより身近に感じる事が地域住民の安心につながり、それが、施設利用者の安心にもつながるようなネットワークの構築を提案したい。

【メモ欄】